

**製品名: Rec8 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16989**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	62kDa

**抗原情報**

遺伝子名	REC8
別名	REC8; REC8L1; Meiotic recombination protein REC8 homolog; Cohesin Rec8p
遺伝子 ID	9985.0
SwissProt ID	O95072
免疫原	抗血清はヒト REC8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 154-203

**背景**

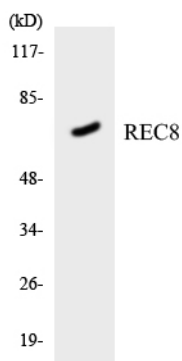
この遺伝子は、SMC（染色体構造維持）タンパク質パートナーであるクライシンファミリーのメンバーをコードします。このタンパク質は、卵母細胞と精母細胞の両方において、減数分裂中に染色体の軸要素に局在します。マウスでは、相同タンパク質は減数分裂

接着複合体の重要な構成要素であり、姉妹染色分体の接着と相同染色体間の組換えを制御します。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 減数分裂中に姉妹染色分体と相同染色体を分離するために必要。後期 I における染色体腕上の REC8 のセパリンによるタンパク質分解切断によって、減数分裂 I で相同染色体の分離が可能になり、後期 II におけるセントロメア上の REC8 の切断によって、減数分裂 II で姉妹染色分体の分離が可能になります。、PTM:リン酸化されています。、類似性:rad21 ファミリーに属します。、細胞内位置:減数分裂染色体では、レプトテレン期からディプロテレン期にかけての前期では軸要素に沿って局在します。後期の前期段階、ディアキネシスおよび中期 I では、セントロメアと腕領域の両方を含む染色体の間質軸に沿って局在します。後期 I の腕領域では検出されなくなりますが、中期 II までセントロメア領域に存続します。、サブユニット: RAD51 とも相互作用します。、組織特異性:精巣と胸腺で発現します。、

## 研究分野

卵母細胞減数分裂;

## 画像データ



REC8 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。